

(受理番号)	3 1 - 3	(受理年月日) 平成 3 1 年 2 月 1 4 日
	請 願	
<p>件 名</p> <p>要 旨</p>	<p>政府に対して、辺野古の新基地建設中止の意見書提出を求めることについて</p> <p>沖縄県民は再三にわたり「辺野古新基地建設反対」の意思表示をしてきた。しかし政府はその度に県民の意思を踏みにじってきた。</p> <p>政府は辺野古新基地建設の強行の理由として「普天間の危険を取り除くため」と言っている。しかし、沖縄県が辺野古新基地建設の「総工費」と「工事期間」を発表したが、それによると、これまでの工事費、大浦湾の軟弱地盤（マヨネーズ状態）の改良工事、今後の県外からの土砂調達費を加算すると 2 兆 5 5 0 0 億円と当初の 1 0 倍にものぼり、工事期間も「埋め立て工事」に 5 年、「軟弱地盤の改良工事」に 5 年、「埋め立て後の施設整備」に 3 年、計 1 3 年も要すると指摘している。軟弱地盤の問題について政府は 3 年前から知っていたにも関わらず、今年になって総理もこれを認め設計変更の必要性に言及した。このような状態で「普天間の危険除去」の「緊急性」という言葉には何の説得力もない。</p> <p>第 2 次大戦の時沖縄は「本土決戦のための捨て石」とされた。その後もアメリカの統治下におかれ、米軍人軍属による強盗、殺人、強姦といった犯罪は後を絶たず、多くの県民が犠牲になり日々恐怖にさらされていた。このことは日本への「復帰」後も変わることなく続いている。</p> <p>日本の国土のわずか 0. 6 % の面積の沖縄に、在日米軍の 7 0 % が集中している。「復帰」後も基地負担を沖縄に押し付け続けてきている。このことに対して沖縄県民が「もうこれ以上基地はいらない」と声を上げることが許されないことなのか。戦前日本政府に捨て石にされ、日本軍によって自決を強いられたり、我が子を殺すことを強いられ、殺された住民の方々。4 人に 1 人が犠牲になったと言われる沖縄の方達が基地を拒否することがなぜ許されないのか。戦後 7 4 年間この状況を放置し続けた私たち本土の人間こそが今声を上げる必要がある。</p> <p>ついては、政府に対して沖縄県名護市辺野古の新基地建設を止めるよう意見書を提出するよう請願する。</p>	